



学習の総まとめ「学習の診断(2/14(水))」に向けて

私立高校の入試が一段落したかと思えば、今日は(1月18日(木))は「第1回 総合診断」が行われるなど、3年生は最後の追込みを懸ける日々が続いています。決してあきらめることなく、全力を尽くして努力の成果を発揮してほしいと願っています。

さて、3学期は次年度の「0学期」とも呼ばれ、令和6年度の準備を始める大切な時期です。特に学習に関しては、進級・進学のための基盤とすべく1年間の総まとめを行います。このことを踏まえ、各学年団で子どもたちの状況に応じた取組をしています。朝の活動中(8:00~8:20)に校内を見回ると、それぞれの教室では各教科で準備されたプリントの問題を解いたり、自分で学習する内容を決めて、ワークブックや問題集を活用して弱点補強に取り組んだりするなど、静寂の中で黙々と目の前の課題に取り組む姿が見られました(写真参照)。

ここで、1・2年生にとっては今年度初めての実施となる「学習の診断」(2月14日(水):年1回)の意味や意義を確認しておきます(※以下の青字は、昨年度同時期の記事再掲)。

- ① 中間試験、期末試験同様、教育課程上に位置付けて実施するものであること。
- ② 文部科学省「学習指導要領」に準拠した問題で学習の到達度を把握するものであること。
 - ➡ 定期試験と異なり、当該学年のこれまでに学習したほぼ全ての範囲から出題されるため、バランスよく学力が定着しているか確認できる。
- ③ 進路選択に活用できるよう、目標の達成度を確認するものであること。
 - ➡ 香川県公立高校入試と同様、1教科50点×5教科=250点満点の試験であり、実際の入試でどの程度の得点ができるかという見通しがもてる。



また、以下のような力や習慣が問われることにもなります。

ア 例えば国語であれば、「初見の文章」を読み取りながら解答する必要があり、本当の意味での読解力や、日頃からの本や新聞等の活字に接しているかが大切であること。

イ 例えば英語であれば、実践的コミュニケーション能力をはかるために「リスニング」が重視されるなど、授業における英語科教員やALT、友達等とのコミュニケーション活動が大切であること。更に、未習の単語でも、文中の文脈からその意味の類推が可能な場合は文中で使用されるなど、より一層読解力が求められていること。

【参考】 大学入学共通テストのリスニング問題の配点：200点満点中100点(全体の50%)
香川県公立高校入試のリスニング問題の配点：50点満点中12点(全体の24%)

子どもたちは、それぞれに具体的な目標をもち学習を進めているところですが、3学期に入ってからこれまでに、感染症を罹患した子どもも散見され、いつ拡大してもおかしくない状況だと言えます。学校では、教室の常時換気を行ったり、手洗いの指導をしたりしているところですが巻頭で述べた子どもたちの日ごろの努力が報われるよう、まずは体調管理に万全を期してほしいと願っています。ご家庭でも引き続き、ご留意をお願いいたします。

